

情報通信審議会 情報通信技術分科会 衛星通信システム委員会 作業班（第22回）
Web会議後の提出意見及び回答

(1) Ku帯非静止衛星通信システムの検討状況について

No	意見提出者	資料No. ページ	意見	回答
1	B-SAT（田中）	資料22-3 P. 23	<p>資料 22-4 今後の調査検討スケジュール(案)においては、10月に作業班報告書をまとめることとなっています。また、資料 22-3の 23 ページでは、下記の運用調整に関する記載がありますので、GSO 衛星事業者と StarLink 社との個別調整会議を行うこととなります。</p> <p>いつ、どのような形で行うのか教えていただけますか？ 運用調整を実施するにあたっては、当事者間で NDA や覚書等を締結することとなるかかと思いますが、そのためには、社内手続きが必要ですので、時間がかかることが懸念されます。</p> <p>資料 22-2 p. 23 「静止衛星通信システムとの共用は、欧州での検討と同様に RR Article 22 条遵守により満たされるため、個別の検討は不要。但し、個別の衛星通信システムとの運用調整は実施。」</p>	SpaceXは関係する事業者と、それぞれ個別に順次調整を進めております。必要に応じてNDAを締結し、その上で事業者との調整会議を開始します。
2	ANA（並木）	資料22-3 P18	<p>14. 47-14. 5GHz の移動(航空) の共存検討結果項には、「30-40dB 高い値となり同一周波数を用いた通信は困難」と記載されており、国内含めた洋上以外にての航空による SpaceX 利用は困難と理解しました。現状の GSO AMSS 運用事例含めて、LOS 内にては、SpaceX の利用案は無いとの理解で正しいでしょうか？理解を深めるためにご教授頂けると助かります。</p>	資料22-3 P. 23の通り、14. 47-14. 5GHzを用いる電波天文は国内に存在しないことから、この検討結果は直接日本のケースには当てはまらないものと考えております。

(2) その他
(意見なし)